平成30年度　中学生の
税についての作文
優秀作品集

発　行　　中京納税貯蓄組合連合会
中　京　税　務　署

はじめに

中学生の「税についての作文」募集は、全国納税貯蓄組合連合会が、中学生の皆さんに税の意義や役割を正しく理解していただくことを目的として、昭和四十二年から実施しているもので、既に五十二回目を迎えております。また、平成二十年度からは、全国納税貯蓄組合連合会と国税庁との共催により実施しています。

本年は、京都市中京区内の中学校七校から六百八十三編の応募をいただきました。

応募された中学生の皆さんのご努力と、深いご理解の下にご指導くださった各中学校の先生方、並びにご家族の皆様に敬意を表しますとともに、厚くお礼申し上げます。

私どもは、この作文募集事業が租税教育の推進に役立つことを念願し、引き続き、この事業の拡大と充実に努めてまいる所存であります。今後とも一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

この冊子は、多数の応募作品の中から、今回、大阪国税局長賞、近畿納税貯蓄組合総連合会会長賞、中京税務署長賞、中京納税貯蓄組合連合会会長賞、公益社団法人中京納税協会会長賞、近畿税理士会中京支部長賞に入選された作品を、編集刊行させていただきました。

一人でも多くの方々に、この作文集をご覧いただき、税に対する関心と理解を、なお一層深めていただければと願っております。

末筆ながら、ご後援いただきました、公益社団法人中京納税協会及び近畿税理士会中京支部に対しまして、心から厚くお礼申し上げます。

平成二十一年二月

中京納税貯蓄組合連合会会長　宇津克美

中京税務署長　豊岡純仁

＊＊＊＊＊＊　目次　＊＊＊＊＊＊

【大阪国税局長賞】

「未来を築く税金」　京都御池中九年　小松﨑　理沙・・1

【近畿納税貯蓄組合総連合会会長賞】

「未来につながる支え」　松原中一年　森　琴音・・・1

【中京税務署長賞】

「税と社会保障制度」　北野中二年　舩越　菜々瀬・・2

「平成三十年七月豪雨の力となれ」　朱雀中二年　内田　昌孝・・・2

【中京納税貯蓄組合連合会会長賞】

「ふるさと納税を考える」　北野中三年　小阪　奈菜葉・・3

「身の回りの税金」　北野中三年　山本　夢羽・・・3

「税と社会保障」　京都御池中九年　樋口　明日也・・4

「災害と自衛隊と税金と私」　京都御池中九年　大野　七海・・・4

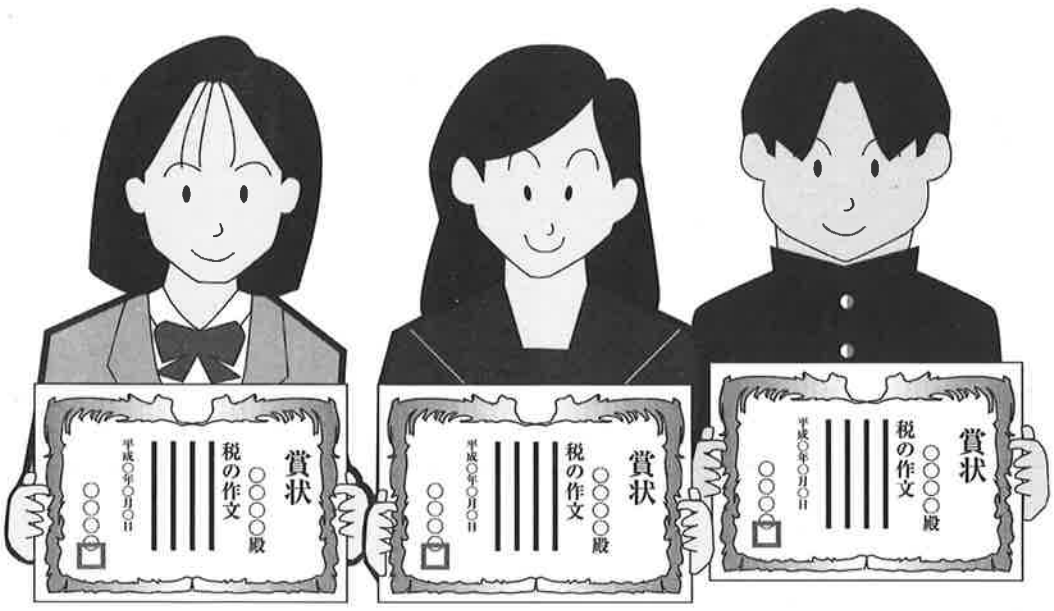
「税に感謝する心をもって」　京都御池中九年　中路　綾乃・・・5

「税は何のために」　西京高附属中三年　藤井　蓮・・・5

「税金は救う」　中京中三年　平井　弥可・・・6

【公益社団法人中京納税協会会長賞】

「未来へ、つながる。」　京都御池中九年　古島　寧々・・・6



大阪国税局長賞

「未来を築く税金」

京都市立京都御池中学校
九年　小松﨑　理沙

「サックスのリードが何本か買えるかな。」それは私の定期貯金に付いた利息の金額を見て思わず出た言葉でした。私は貯金通帳を使って自分のお小遣いのやりくりをしています。きっかけは中学に入学した時、母から「社会人になるまでに、きちんとした経済観念を身につけてほしい」との理由で、私の名前の通帳を渡されたことでした。それまで母が貯めてくれていたお金はすべて定期貯金にして、ゼロからのスタート。その後、自分でお小遣いの管理をするようになり、お金に関する情報にも興味を持つようになりました。

先日、私宛に定期貯金の満期のお知らせというものが届きました。サックスのリードが何本か買えるちょっとした利息でしたが、嬉しくなりました。しかし、利息の内容をよく見てみると、税引き後の利息と記載されていました。そこには、国税と地方税と書かれていたのです。

「私の貯金から税金が引かれている。」と、私が不満げに母に言うと、

「あなたも日本に住んで、京都市にお世話になっているんだから当たり前でしょう。」と、母に言い返されました。確かに、私が京都市立の中学校に通い、楽しい学校生活が送れていること、所属する吹奏楽部では学校が購入したサックスを吹いていること、登校時に私がゴミとして出すペットボトルや空き缶が、下校時にはすっかり綺麗に無くなっていること、このような私の日常生活の当たり前なことは、全て税金に支えられているのです。

そして国税の中には、復興税というものが含まれています。復興税は災害地での当たり前の日常生活や被災した人々の笑顔を取り戻すために使われる税金です。

今年の夏、私は初めて災害を身近に感じました。鴨川が危険水域を超えたため私の住む地域にも避難準備が発令されたのです。今まで味わったことのない大きな不安を感じました。結局、私の住む地域で大きな被害はなかったのですが、西日本全体では大きな被害があり、地元の消防団や自衛隊の方々が懸命に救助している姿がニュースに映し出されていました。私は、災害に例外は無いということそして誰もが被災者となる可能性があるのだということを痛感しました。

私が今回納めた復興税は、神社にお参りする時のお賽銭ぐらいの金額でしたが、それでも災害地復興の一助となるお金です。災害の多い日本で、復興税は期間限定ではなくずっと続くものであってほしいと思います。

健康であること、夢や希望を持つことなどお金で買えないものが一番大切です。でも、それを当たり前のように支えているのが税金です。自分達の暮らす社会の安心と安全を支える税金。税金は誰かが払ってくれるものではなく自分が払うものです。一人ひとりが税金という社会貢献をすることで、私たち日本の明るい未来が築いていけるのだと思います。

近畿納税貯蓄組合総連合会会長賞

「未来につながる支え」

京都市立松原中学校
一年　森　琴音

私は今回「税の作文」を書くにあたり、私は税についての知識があまりないことに気づき、税について調べることから始めました。まずインターネットで検索すると、国税庁のホームページが出てきたので訪問しました。

税金は社会保障、公共事業、文教及び科学振興、地方交付税交付金、経済協力費など私たち国民の生活に関わるあらゆるところに使われています。社会保障の項目を調べている時に、私は母に「私たちが病院で支払う費用の何割かも国が負担してくれているんだね」と話しかけたら、「そうよ、でも、あなたの場合はそれだけではないのよ。小さい頃に手術をした時のことを覚えているでしょう?」と母から返事が返ってきました。

私は六歳の時に目の手術を受けたことがあります。先天的に両目の涙点がないため涙管が閉塞しており、涙の量の調節がうまくできませんでした。病院で診てもらったところ、視覚障害につながる可能性があるからすぐに手術が必要だと医師に言われて、その時、母は、視覚障害の恐れ、手術のこと、入院のこと、費用のことが頭をめぐりとても不安になったそうです。しかし、すぐに医師から「育成医療の対象になるので費用の負担はありませんよ、安心して下さい。」と言われ、初めて聞いたこの制度に驚いたそうです。

母は最初の診察から完治するまでの書類を大切に保管していて私に見せてくれました。その内のある書類には「育成医療」について書かれていました。「育成医療」とは生まれつき、または病気、事故などのため、身体に障害のある乳幼児・児童に対して、生活能力を得るために、指定医療機関で医療を受ける場合、医療に要する費用を公費負担する制度です。十八歳未満の子供で眼科の手術を受けることで、確実な治療効果が期待される方を対象としています、と説明されていました。

「あの時、この制度のおかげであなたの治療に専念することができたし、両目は何事もなく完治して本当に有り難いと思ったのよ。でもこの制度は私たちが税を納めているから成り立っているの、だから私たちが納めた税が、いま病気や災害で困っている人たちの支えになっていたらいいなと思うわ。」

この母の話や当時の書類に目を通して、六歳だった私の未来につながる支えになったこの制度に対し、感謝の気持ちでいっぱいになりました。私も大人になって納税する立場になれば、困っている人の未来を支えられるよう、しっかり働いて納税しようと思います。

中京税務署長賞

「税と社会保障制度」

京都市立北野中学校
三年　舩越　菜々瀬

「社会保障制度」というものを知っていますか。この制度には私達の「安心」や生活の「安定」を守るセーフティネットの機能があり、生涯にわたって私達を支えてくれるものです。

スウェーデンは社会保障が充実している国として知られています。その秘密は人々が納める「消費税」にあります。スウェーデンの消費税は二十五パーセント、日本の約三倍の税率となっています。

私の祖父は病気を機に一人での生活が困難となり、介護老人福祉施設を利用することになりました。現在、祖父はその施設で生活していますが、入所を希望したときには「緊急性が高くないと入所出来ない」という内容の返事をされました。この返事に私が思ったことは「お年寄りの方は恩恵を受けられてないのではないか」ということです。施設に入所したくても入所出来ないお年寄りの方は沢山いると思います。その方々は若い頃から働いて税金を納めてお年寄りの方を支えてきたはずなのに、お年寄りとなった今は支えてもらえていないのです。私はこの課題を解決するには「税金」が必要だと思います。

二〇一九年に日本は消費税を十パーセントに引き上げることを予定しています。社会福祉制度の現状を知らない人は消費税の引き上げに反対すると思います。しかし、「今」と「将来」のことを考えるとこの引き上げは大切なことだと私は考えます。スウェーデンに住む人々が日本の約三倍もある消費税を払って社会保障制度を充実させているのは「相互扶助」の気持ちがあるからだと思います。この気持ちは今の日本にも必要ではないでしょうか。今のままでは私達の世代が将来辛い思いをするはずです。一人ひとりがお互いに支え合っていくことが将来の日本の「社会保障の充実」に繋がると思います。

少子高齢化に伴い、年金や介護などの社会保障費用は増加しています。将来のためにも「相互扶助」の気持ちを大切にしようと思いました。

中京税務署長賞

「平成三十年七月豪雨の力となれ」

京都市立朱雀中学校
二年　内田　昌孝

平成三十年七月豪雨。まだ記憶に新しいというよりも忘れられない災害だ。僕が住む京都も死者や行方不明者が発生し、住宅災害も千棟を超えるものだった。ある日、緊急メールが数分おきに鳴り響き、テレビで経験したことのない特別警戒レベルの大雨と発表された。僕の住む隣の地域には避難準備の指示がでた。川が氾濫し、橋が決壊、住宅の二階部分まで水につかり、屋根の上で救助を待っている人々の姿を見た。

家の中が泥まみれになり、学校は避難所となり、これまでの生活ができなくなった時、元の暮らしに戻るためには多くのお金が必要となる。安倍首相は、災害復興のために、国会予算の予備費を二十億円投入したり、被災した十府県五十八市町に対し、総額約三百五十億円の普通交付税を繰り上げて配分したりすると表明した。災害発生から、約十日後のことだった。「国として先手、先手でできることはすべてする」と言っている姿を見て、力強さを感じた。被災者に頑張る意欲を与える言葉だと思った。必要なタイミングで必要なところに支援することはとても意味のあることだと思う。

ふるさと納税制度も支援の一つだ。ふるさと納税は、応援したい自治体に寄付ができる制度だ。手続きをすれば、所得税や住民税の還付、控除が受けられ、多くの自治体では納税のお礼の品が準備されている。納税した上に返礼品が送られてくるということで数年前から注目されている。現在は、被災地域の復興のために納税という形で応援することができるのだ。義援金や支援金としてお金を必要な場所に届けることはこれまでもあったが、このように簡単に自治体に向けて寄付することができるようになったことはふるさと納税が普及したことによる利点だと感じた。納税額はすでに五億円を超えている。

全てを支えているのは私たちが支払っている税金である。税金がなければ、必要な時に必要な場所に支援することはできない。消費税はもちろん会社に勤めている母は、給料をもらうと同時に所得税や住民税が給料から引かれている。僕たちが納めた税金は国民が健康で文化的な生活を実現するために国や地方公共団体が行う活動の財源となる。国民が税金を平等に納めているからこそ、災害などで必要な所に配分することができるのだ。

西日本最大の災害とも言われた今回の豪雨。被害にあった方々が元の生活に戻れることを願っている。先日は、岡山県や島根県の友達と一緒に合唱の全国大会にゲストとして出場した。今僕は、お金での支援はできないが、大好きな合唱を通して被災地の友達を応援している。祈りの歌を歌うこともあり、被災地の友達の気持ちに近づき、心を合わせ今自分のできることを頑張ろうと思っている。そして大人になれば、必要な税金を納めることのできる人になりたいと思う。

中京納税貯蓄組合連合会会長賞

「ふるさと納税を考える」

京都市立北野中学校
三年　小阪　奈菜葉

私がふるさと納税を知ったきっかけは、祖母から米のおすそ分けをもらったときに、ある自治体に納税したら米が御礼で送られてきたと説明を受けたからでした。なぜ納税すれば御礼がもらえるのでしょうか。学校の公民の授業で、納税は国民の義務と教えられていたので、当たり前のことをしただけなのに返礼の品がもらえるなんて、すごく不思議な現象に思えました。

ふるさと納税をインターネットで調べると、返礼品ランキングや高還元率ランキングなど、返礼品のことばかり記事になっていました。

しかし、私が納税する立場なら、やはり自分の納めたお金がどう使われているのか知りたいと思いました。そこで使い道について調べてみると、私が住んでいる京都市では「三条大橋の補修・修景」や、「京町家の保全及び継承」などいろいろありました。調べていく内に、自治体だけでなく使い道も選べることも分かり、これなら自分の意思を税金を納めるという方法で表せると思い、返礼品から自治体を選ぶのではなく、自分の納めた税金が何に使われているのかを理解した上で寄付できるので、すごく気持ちが表せていい方法だと思いました。

調べていく内に、返礼品に頼らずにふるさと納税を集めた事例がいくつかありました。身近な自治体では、京都府長岡京市の「こどもたちに本を贈ろうプロジェクト」がありました。このプロジェクトは、学校図書館に本を寄贈することを目的とし、累計納入冊数は一五〇〇冊以上になったそうです。寄付が集まった原動力は、使途が明確で寄付先の学校や贈る本まで指定可能であったことが推察されます。やはり返礼品を必要としない納税には、明確な使途や目的を納税者に理解してもらう必要があることが分かりました。以上のことをふまえ、元々のふるさと納税の課題である「子供が成長して働けるようになったと思ったら都会へ移り住み、子供に提供した行政サービスの収支が合わない」といったことに対し、「出身者だけに限っては」という意見もあるそうですが、自分の意志で関心のある社会課題を解決するために納税先を決定できることは、とても大切なことだと思います。自治体が本当に必要な課題に対し、納税者に理解してもらう取組みを行えば、返礼品に頼らない本当の意味のふるさと納税が確立できるのではないでしょうか。

中京納税貯蓄組合連合会会長賞

「身の回りの税金」

京都市立北野中学校
三年　山本　夢羽

なぜ、税金を納めなければいけないのだろうか。何を買うにも税がかかるし、要らないのではないかと思ったことがある人も多いだろう。しかし、健康的で文化的な豊かな生活を送るには、必要不可欠でありとても大切なものなのだ。

まず、税金は何に使われているのだろうか。道路整備に市民病院や教育費、警察・消防署、ダム、公園、図書館など他にもたくさんのものに使われている。だから、税金がなくなれば買うものに税金はかからなくなるだろうが、それ以上のデメリットが生じるのである。事故は多発し、病気も治せない。学校にも行けず、火事や事件はなくならない。水も飲めず、遊ぶ場所も減る。そうすると人間は豊かな生活が送れなくなるだけではなく、生きていくことさえもままならないのだ。よって、税金を納めるのは、国民の三大義務に指定されるほど大切なのだ。みんながみんなの幸せのために負担するものだ。

次に、中学生一人あたりの年間教育費についてだ。僕は今、毎日あたり前のように学校へ通っているが一年間で一体いくらかかっているのだろうか。僕が通う中学校は公立だが、年間の学費は平均して、約四十八万円かかる。また、三年間だと約百四十四万円かかるのだ。それに対し私立の中学校は年間で約百三十四万円、三年間だと約四百万円かかる。だとすると、私立の中学校で平均してかかる学費は公立の約二・八倍なのだ。もう少し内訳を詳しく比較すると、私立は公立の学校給食費の〇・一倍、学校外活動費はほとんど同じ、そして学校教育費は約八倍も違う。公立と私立の教育費に大きな差がでるのは、公立の授業料はそもそも〇円だからである。

最後に、税金の種類についてだ。生きていくうえで必要な税だが、何種類あるのだろうか。税金には、課税主体が国である国税と、地方公共団体である地方税がある。国税には、所得税、法人税、相続税、贈与税、消費税、酒税、たばこ税、自動車重量税などがある。また、地方税には、住民税、事業税、固定資産税、地方消費税、自動車税などがある。他にも様々な税があり、合計で約五十種類ほどある。たくさんの種類がある税金だが、僕たち中学生にとって一番身近に感じるのは消費税だろう。現在、消費税は八パーセントだが、二〇一九年十月には十パーセントへの増税が予定されている。この増税に対しては、賛否両論、様々な意見があると思う。僕もあまり賛成はしていなかったが、税金が足りなくなった時の影響を考えると、増税は自分たちが生活していくためにも必要なことなのかと思った。

このように、税金にはたくさんの種類があり、それぞれに意味があることを知った。僕たち中学生はまだ消費税でしか税を納めていないが、みんなが健康で豊かな生活を送っていくためには納税がどれだけ大切かを知った。

中京納税貯蓄組合連合会会長賞

「税と社会保障」

京都市立京都御池中学校
九年　樋口　明日也

僕が生まれたばかりの頃、父は難病を患った。父は入退院を繰り返し、働くことができない期間は二年に及んだ。収入がなくなり、借金が積み重なって、当時は本当に大変だったそうだ。

現在、父は朝から晩まで毎日働いてくれている。そのおかげで、僕は毎日学校に通い、習い事や塾を続け、公立・私立を問わず進学先を検討することができている。

今こうして豊かな生活を送ることができているのは、幸運にもこの日本という国に生まれたおかげだ、と父は言う。

僕達家族を救ったのは、日本の社会保障制度だ。父が患った病気の名前は、潰瘍性大腸炎。完治させる治療法が確立されておらず、安倍首相が首相を一度退任する原因にもなった、国が特定疾患に指定している難病だ。

本来、莫大な医療費が必要となるのだが、自治体の医療費助成制度によって、ほとんどの支払いを免除された。現在は病状が安定しているが、月当たりの医療費の自己負担上限額が定められているため、仮に病状が急変したとしても一定以上の費用はかからない。おかげで安心して働くことができる、と父は言う。

仕事を失ってからしばらくは、雇用保険制度によって、完全に収入が途絶えずに済んだという。職業安定所の勧めで職業訓練を受けることができた父は、専門知識と技能を身につけ、病気によるハンデとブランクを克服して社会復帰することができたそうだ。

僕の家庭は、かなり極端な例かもしれない。だが、日本に住んでいる人たちは皆、社会に助けられて生きていると思う。

現在、日本の社会保障制度は保険料だけでは維持できなくなり、全体の四割近くを税金で補っている、とされている。少子高齢化が進み、年金や介護、医療の費用が増え続ける一方で、その費用を負担する働き手の数は減り続けているからだ。

社会保障制度は、皆が安心して日常生活を送るためにあると思う。だからこそ、税金を投入してでも制度を維持しなければならない。しかし、税金を投入すれば予算が足りなくなり、引き換えに国債が増えていく。国の財政は年々苦しくなっていくのだ。

今後も社会保障制度を維持し続けるために僕達にできることの一つは、健康でいることだ。だが、父がそうであったように、個人の力でずっと健康を維持して元気でいることは、実はとても難しい。国も医療費の増加に歯止めをかけるため、病気の早期発見や予防医学の推進、運動の奨励など、様々な施策を行っている。

僕も将来、社会に出れば納税者になる。運動不足や寝不足で体調を崩さないよう、今から生活習慣に気をつけ、健康な心と体でしっかり働き、僕達家族を支えてくれた日本社会を支えていこうと思う。

中京納税貯蓄組合連合会会長賞

「災害と自衛隊と税金と私」

京都市立京都御池中学校
九年　大野　七海

「税金」この言葉を聞いて幸せになったり嬉しくなったりする人は多くないと思う。なぜ百円の物を買ったのに八円も余計に払わないといけないのか。なぜ車を持っているだけで税金を払わないといけないのか。税金について考えていると、たくさんの不満や疑問が浮かんでくる。税金なんて必要ないのではないか。そう考えたこともあった。しかし、あるきっかけによって税金の大切さ、重要さについて気付かされることになった。

今から約二年前、震度七の地震が熊本県、大分県を中心とする九州地方を襲った。私の祖母は熊本に住んでいるため、そのニュースを知った時はとても驚き、心配した。幸い、大きなケガはなかったものの、家の中はグシャグシャになり、所々壁に亀裂が入っていた。私は地震が起きた一週間後、母と一緒に祖母の家を訪れ、その時に祖母から地震の話を聞いた。避難所にいる間は、自衛隊から送られた、物資などで生活していたという話や、地震によって家が壊れた人などには、自衛隊がお風呂を無料で提供していたという話を聞いた。

そして今年六月、大阪北部を震源地とする地震が起きた。私の母は震源地の近くで働いているため、なかなか帰って来ず、とても不安になった。だから母が帰ってきた時は安心したし、ほっとした。その時も熊本地震の時と同じように自衛隊が物資を届けてくれたそうだ。また、七月にあった西日本豪雨では自衛隊がたくさんの人を救助している場面をテレビや新聞などで見た。

熊本地震、大阪北部地震、そして西日本豪雨。どの災害も様々な所から「自衛隊」という言葉を聞いた。そこで私は自衛隊について興味を持ち調べてみた。被災者や遭難した船舶、航空機の捜索、救助だけでなく、国連の行っている平和維持活動に協力をするなど、様々な活動を行っていると知った。しかし、これらの活動は私達国民が払っている税金があるからこそ成り立っている活動なんだということも知った。私達が日々払っている税金。初めは私達に嫌がらせをするものだと思っていたが、決してそうではなかった。税金はこの国、そして世界をより良くしていくために必要なものだと分かった。

国民全員がきっちり税金を払うことで誰かを救い、世界をより良くしていくことができるのならと考えるとワクワクするし「税金」はとても大切で重要なものだと思う。

様々な災害が起き、世界のニュースでは昨日も、今日もずっと悲しい場面が流れている今、私には一体何ができるのか。そう考えた時、私は「納税」だと考える。直接的な力にはならないが少しでも力になれるのなら、私はきっちりと税金を払い、現在、そして未来をより良くしていきたい。

中京納税貯蓄組合連合会会長賞

「税に感謝する心をもって」

京都市立京都御池中学校
九年　中路　綾乃

「消費税って払う意味あるの。」と母に聞いたことがある。私たち中学生にとって最も身近な税金といえば消費税だろう。八％と聞くとほんのわずかなものだと思うかも知れないが、もとの値段よりも高い値段で物を買うとなるとやはり高く感じてしまう。もちろん私も自分のお小遣いが消費税で減るのが嫌で、母に愚痴をこぼしていた。そんな私に母は、「私たち家族は特に税金に助けられているのよ。」と言った。

私の兄は、心臓の病気を患っており、大したものではないが、通院は欠かせない。そのたびにかなりのお金が掛かっているようで母子家庭である私は母の負担がとても大きいのではないかと心配になった。しかし、母子家庭は医療費の一部を助成してもらえるということを知った。しかも、私があんなに嫌がっていた税金で。そこで初めて「税金に助けられている。」という意味を心から理解することができた。

こうして、税金がいかに私たちにとって必要なものかを知ることができた私は逆に税金が無いとどうなるのかということを調べてみることにした。インターネットで検索してみると、税金がどれほど大切なものなのかが改めて分かった。私たちは今、当たり前のように学校へ通っているが、教科書や黒板、さらには机もが無くなってしまったらどうだろうか。どれだけ生ゴミを出しても当たり前のように収集してくれるが、それが無くなってしまったらどうだろうか。こんな当たり前のことがすべて税金で動いていたのだ。水さえも税金のもとで動いているということは発展途上国の深刻さはとても深いのではないかと感じた。そう考えると今、綺麗な病院があること、安全に水が飲めることなどすべてのことに感謝しないといけないなと思った。

日本は環境も整っているし、安全に暮らすこともできる。それは本当に素晴らしいことだ。そして、それらは私たちが税金を払っているからということを忘れないでほしい。そして、税について考えてみてこれからは消費税を躊躇なく払えると思う。なぜなら、私一人分のお金でも世の中を成り立たせる為に貢献することができるからだ。そうして、国への貢献者として成長していきたいと思う。

中京納税貯蓄組合連合会会長賞

「税は何のために」

京都市立西京高等学校附属中学校
三年　藤井　蓮

私は昔、何かのテレビ番組で、ヨーロッパの多くの国では消費税率が二十パーセント以上であるということを知り、とても驚いた。当時の私は税のことをよく分かっていなかったが、日本では消費税率が五パーセントから八パーセントに引き上げられ、そのことに不満を感じている人も少なくなかった。それなのに二十パーセントなんて、その国の人は嫌ではないのかと思ったのをよく覚えている。

今回、この作文を書くにあたって他国の消費税率を調べてみた。すると、デンマーク、スウェーデン、ノルウェーなどでは消費税率は二十五パーセントだった。一方、これらの国は世界幸福度ランキングで十位以内に入っている。ちなみに日本は現在五十四位である。消費税率が高くてもそれを嫌だと感じることなく、幸せだと感じられるのは、自分達が納めた税金が本当に自分達の生活に良い形で還元されていると心から思えるからではないだろうか。

もちろん日本でも公共施設、公共サービスの提供には税金が使われている。私達中学生が使用する教科書も税金によって賄われている。ただ、最近ニュースなどを見ていると、税金が軍事的な面に使われることも多くなっているように感じる。今年七月には西日本で豪雨災害があった。救助活動の中で、総務省からの要請により、レッドサラマンダーという特殊車両が出動した。瓦礫やぬかるみがある道でも走れ、怪我人や救助の人員、物資などを運べるそうだ。ただ、このレッドサラマンダーは日本に一台しかない。一台の値段は約一億一千万円とのことで、高く感じるかもしれない。だが、政府は一機あたり約一四七億円のＦ３５戦闘機を何機も購入する予定だという。それを一機購入するお金で一体レッドサラマンダーを何台買えるんだという批判の声も多かった。もちろん一億一千万円というのはあくまでも購入金額であって、それを全国に配置するとなればその分維持費用もかかる。費用対効果がどれほどのものかまだ明確ではないし、税金をどちらに使うのが正しい、と断言できるものではない。ただ、そういう批判がすぐおきてしまう程、税金を軍事力強化に使ってきたというイメージがついているのも事実だと思う。だからこそ、消費税率が上がる、ということにマイナスのイメージを持ってしまうのではないだろうか。

もう一度、考えてほしい。税金は何のためにあるのか。誰のために使われるべきなのか。そして、私達も今まで以上に税のことについて知らなければならないし、考えていかなければならないのだと感じた。

中京納税貯蓄組合連合会会長賞

「税金は救う」

京都市立中京中学校
三年　平井　弥可

母親がお腹が痛いと言いだした。痛みに強い母だから、ちょっとした痛みではないことはすぐに分かった。私には母親しかいないから、たよれる大人もおらず、少しでも役に立とうといろんなことをやったものの、役立たずであった。日に日に悪くなっていく病状も私にはだまってみていることしかできなかった。

ある日、朝起きると母がいなかった。家のどこにもいないのだ。すると電話がかかってきた。母からのものだった。内容は病院に今いるから、というものだ。急いでその病院に向かうと、夜中、痛みがひどくなって自分で救急車を呼んだ。入院は一日ほどだと思う。そんなことを母から伝えられた。一日ですんで不幸中の幸いかな、そんなことを考えていた。しかし、入院は、二日、三日、四日とのびていった。ついには、手術をする、と言われた。そんなこと全然考えていなかったので、不安で仕方なかった。母の体のこともあったし、金銭的な部分もあった。入院も何日もして手術まで。これからどうなるの。そんなことを考えておちつきなくしていたら、とうとう手術の日になった。その日はただ、手術の成功を願うしかなかった。

手術もなんとか成功し、何日かして母は退院した。退院したと言っても手術は終わったばかりなので、思うように動けなかったが、日を重ねるごとに元気になっていく母を見て、すこし安心した。しばらくして、母にずっと不安で気になっていたことを聞いた。お金は大丈夫なのか、家計は平気か、と。すると、「三割しか負担していないから大丈夫だよ。」と母は言った。三割ってなんだろうか。そう思い聞いてみると、入院、手術代が十だとすると、母は三割分の値段しか負担しないですみ、残りの七割は国の税金で払ってくれるらしい。ちなみに救急車も税金で動いてくれるから、母がお金を払う必要はなかったそうだ。これを聞いて、不安は一気になくなった。

今まで何のためにあるのかはっきり分かっていなかった税金。必要ない、とまで思ってしまっていた。そんな税金が母を救ってくれた。私も救ってくれた。今ならはっきり言える。税金がなんのためにあるのか。

公益社団法人中京納税協会会長賞

「未来へ、つながる。」

京都市立京都御池中学校
九年　古島　寧々

今年の六月下旬から七月上旬にかけて西日本を中心に広い範囲で記録された集中豪雨―西日本豪雨により、日本は大きな被害をうけた。死者は二〇〇人以上、避難勧告・指示は約六万人に出され、被害の大きかった広島、岡山などでは大雨特別警報が最初に出されてから一ヶ月たっても、まだ家に帰ることのできない方々がいる。このような苦しい状況が続く中、安倍晋三首相は七月十三日、被災した五十八の自治体に総額約三五〇億円の普通交付税を繰り上げ交付すると発表した。

私は今まで税に対してあまり良いイメージを持っていなかった。消費税が五パーセントから八パーセントに引き上げられた時、「消費税がなかったらいいのになあ。」と私が言うと、母は、「税は必ず誰かの役に立ってるんだから、悪いものじゃないんだよ。」と言った。そのときは、まだ母の言ったことを理解できなかった。

ある日、私は本を読んでいるとある制度を知った。小児慢性特定疾病医療費助成制度である。その制度は国が指定した疾病、いわゆる難病を抱えた子ども達の治療費の負担を軽減するためにできた。私は大きな病気や怪我をしたことがないが、もし、病気になったなら、と考えるとこの制度は大きな心の支えとなるだろうと思った。そしてこの時、私はこれまでの自分の考えの未熟さを恥じた。母の言っていたこともようやく分かった。私たちが納める税は知らない誰かを助けているのかもしれない、そう考えると、とても心が温かくなった。

税によって支えられているのは、病気の人達だけではない。初めに記したように、災害の被害にあわれた方々もまた、税に支えられている。西日本豪雨のみならず、東日本大震災など、日本では様々な災害が起こってきた。私はテレビでニュースなどを見るたび、その被害の大きさに驚き、被災された方々を助けたいと思ったが、どこか他人事のようにも感じていた。よく「世の中お金じゃない」などと言うが、やはり人々の理想とする生活を維持するには、経済的に豊かでなければならないし、お金がなければ理想は空論に堕してしまう。つまり、被災地、被災者を救う第一の手段はやはりお金、税なのである。もし、日本に税がなければ、被災地の復興、被災者の心が癒えていくのは、ずっと先になっていたであろう。

私が税にマイナスのイメージを持っていたように、まだ日本には税に対して否定的な考えをもつ人達がたくさんいるであろう。しかし、そんな人達はぜひ考えてみてほしい。自分たちの納めた税は、病気の子ども達や被災された方々を支え、勇気づけているということを。自分たちの納めた税は、たくさんの人々をつなげているということを。そして、私たちの未来への架け橋となっているということを。

中学生の「税についての作文」入選者名簿

【大阪国税局長賞】

「未来を築く税金」　京都御池中学校九年　小松﨑　理沙

【近畿納税貯蓄組合総連合会会長賞】

「未来につながる支え」　松原中学校一年　森　琴音

【中京税務署長賞】

「税と社会保障制度」　北野中学校三年　船越　菜々瀬

「平成三十年七月豪雨の力となれ」　朱雀中学校二年　内田　昌孝

【中京納税貯蓄組合連合会会長賞】

「ふるさと納税を考える」　北野中学校三年　小阪　奈菜葉

「身の回りの税金」　北野中学校三年　山本　夢羽

「税と社会保障」　京都御池中学校九年　樋口　明日也

「災害と自衛隊と税金と私」　京都御池中学校九年　大野　七海

「税に感謝する心をもって」　京都御池中学校九年　中路　綾乃

「教科書の言葉」　京都御池中学校九年　片岡　優奈

「税は何のために」　西京高等学校附属中学校三年　藤井　蓮

「税金は救う」　中京中学校三年　平井　弥可

「今日も明日も生きている。」　西ノ京中学校三年　田中　茉耶

【公益社団法人中京納税協会会長賞】

「未来へ、つながる。」　京都御池中学校九年　古島　寧々

【近畿税理士会中京支部長賞】

（掲載辞退者一名）

中学生の「税についての作文」応募状況（中京税務署管内）

（単位：人、編、%）

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
生徒数	2,613	2,573	2,506	2,441	2,436
応募数	716	709	821	445	683
応募割合	27.4	27.6	32.8	18.2	28.0

【注意事項】

今後実施される中学生の「税についての作文」募集に当たり、中学生の皆さんが応募作品を作成される際、この作品集に収録されている文章を、そのまま引用することはできませんので、ご注意ください。

平成31年２月発行
【発行者】　中京納税貯蓄組合連合会
中　京　税　務　署
事務局　京都市中京区富小路通二条上ル鍛冶屋町３７９番地
公益社団法人 中京納税協会内　　℡　075－221－0071

この作品集に掲載された作品を他の雑誌・広報誌などに転載する場合は、あらかじめ作者及び中京納税貯蓄組合連合会並びに中京税務署の承諾が必要です。